

平成 27 年 8 月 18 日

近畿不動産鑑定士協会連合会
危機管理対応委員会
委員 土井 元

京北初川地区 視察報告書

平成 27 年 8 月 15 日（土）視察

平成 26 年 8 月 16 日から 17 日にかけて「京都市右京区京北」地区で起った豪雨災害の 1 年後について、現地の状況を目の当たりにし、ぜひとも皆様にも知っておいていただきたいと思い、ご報告させていただきます。

当日のテレビでは「五山の送り火」が普通に放映され、その周辺は雨も降っていない晴天の映像が流れている、一方、こちらは昼過ぎあたりから降り出した雨が降り続き大雨となり、その雨音及び河川の轟音並びに河川水位上昇のテロップ等を見ながら恐怖感を覚えつつ、山を隔てて向こうとは大きな違いだなと思っていたのを記憶しています（避難勧告は出ていましたが、なぜか避難しようとは思いませんでした。過去にも少しきつい大雨はあったし、この雨もそのうち止むだろう、家の中の方が安全だろうというような安易な素人判断があったのかもしれませんが、また、いつものような雨が降り出し、その降雨が絶え間なく続いているというような状況でしたので、地震とは違って、直ぐには危機感を感じなかったのも避難行動を難しくさせた要因かもしれません）。



さて、取材場所は「京北初川町」という地区（京都駅から車で 1 時間半位の場所）で、山間の杉やヒノキに囲まれた自然環境に恵まれたのどかな山村集落です。しかし、この地区も他の集落同様に過疎化が進んでいます。

なお、京都市右京区京北（旧「京北町」）は「北山杉」で知られる磨丸太の産地としても有名ですが、こちらも林業は低迷しているとのこと。

ご提案ですが、都心のマンションにも和風テイストを取り入れ、いわゆる「床」を設け、床柱を設置していただけたら、木材需要は増え、林業も活性化し、地方の雇用も生まれる等「地方創生」の一翼を担えるのではとも考えるのですが、いかがでしょうか・・・？

①



当該地区でも比較的人や車が往来する箇所は上記のように、擁壁が再築されるなど復旧工事は完成しておりました。

②



平成 26 年 8 月 17 日時点の様子

当日、周辺はかびくさいような、草の青臭いような、何とも言えない臭いが漂っていました。

また、被害状況の確認でしょうか、警察のパトロールカーも近隣まで来てくれています。



平成 27 年 8 月 15 日時点の様子

当該地区奥手の林道部分は 1 年たっても左記のとおり土嚢が積まれたままであり、また、つい先日、大雨が降ったらしく、その際に土嚢の一部が崩れたとのことでした。

なお、この周辺は土砂災害警戒区域・同特別警戒区域の「土石流」のイエローゾーン、一部は「急傾斜地の崩壊」のレッドゾーンに指定されています。

③今回、この林道をさらに奥の方へ入って行きましたら、下記のとおり土石流の爪痕がはっきりと見て取れ、被害の大きさに衝撃を受けました。



④



一方、復旧工事も進んでいるようで、左記写真のように、山の斜面にネットが張られていたり、下記写真のように、奥手の林道部分でも擁壁が崩れた箇所は土嚢が積まれたりはしていました。

対岸にあった石積み擁壁が崩れたものと思われる。



⑤上記②の箇所から概ね 500m程（上記④のネットが張られている所くらいまで）進み、その間「砂防堰堤」が5箇所ほど目視確認できましたが、いずれも「砂防堰堤」によって、下記のように土石流が食い止められているのがご理解いただけるかと思えます。



ある専門家にお伺いしましたら、砂防堰堤に堆積した土砂は、取り除く場合もあれば、そのままの状態（土砂が堆積することで勾配が緩やかになる）にすることもあるそうです。



もし、この「砂防堰堤」がなかったら、下手の家々は流され、住民も被災していたかと思うとぞっとしました。

⑥



左記のとおり、京都市建設局・左京山間部土木事務所がこの8月から道路・河川等の復旧工事を行うようです。

最後に、この災害では京北周山地区で1名の方が川に流されて死亡したほかは人的被害はなかったようですが、山間部で起っていた土砂崩れの事実をもっと大きく、いち早く知らせ、多くの方がこの情報を把握し、危機意識を高めていれば、その後に続く京都府福知山市や広島市安佐南地区等で起った土砂災害による被害をもっと食い止められたのでは・・・と痛感しました。

以上